

ひまわり通信 26年10月

～実りの秋～

運動会も終わりに子ども達は成長し、食欲旺盛で、給食もたくさんおかわりしている様子です。そして次はクリスマス会の準備が始まります。園にとって2学期は立て続けに2大イベントが行われる忙しい時期なのですが、モンテッソーリ教育という下地の基にイベントの準備は行われます。クラスの中で先生方が教材を準備し環境を整えます。子ども達はその中でチャレンジを与えられ、それを克服するために、一生懸命に仕事に取り組み、集中するという体験をします。そこから満足感や自立心そして問題解決能力が次第に高められていくのです。ですから運動会の準備もこれからのクリスマス会の準備もただ単に先生に指示されて動くのではなく、大人には見えない部分で自分なりに考え、選択しているのです。子ども達はこうして一つ一つ自分の実りを味わっていくのです。最後にマリア・モンテッソーリの言葉を引用しましょう。
「子どもの教育とは、大人が主体となり、子どもに何かを学ばせたいと頑張る努力なのではなく、子ども達がもつ『自然な学びの本能的な光』を消さないように努力することである。またその光は知性というものである。」

園長 福崎

～敬感期～

3歳になったばかりの女の子、お絵かきを始めるために赤色の鉛筆を持ちました。何かごそとやっています。何をしているのか見ていると、親指と人差し指を広げて伸ばしその真ん中に鉛筆を置きバランスを取り、指をそろえて握って書き始めます。書く絵はほんの少し、また違うページを開き、親指と人差し指を広げて伸ばして先ほどの動きを繰り返しています。書くことより持つ方に時間がかかっているのに苦にならない様子。また、幼稚園の園庭で1歳半の女の子が鉄棒に向かって歩いて来ました。「あつ ぶつかる！」と思ったたん、ひよいと頭を下げてそのまま歩いていき、また同じ事を繰り返します。お母様は、子どもの様子を余裕を持って見つめています。この時期の子どもは、自分の周囲の色々な物に手を出し、一番興味のある物に向かっていきます。例えば、「ねじる」事に興味のある子は化粧瓶・調味料・水道・手首の回転が出来るものは何でも手当たり次第にねじっていきます。この要求は抑えられるものではなく、大人が注意したり止めても隙あらばいつもでも繰り返します。もし、この時期に子どもが使ってもいいものを準備して、子どもの要求を満たせてあげると、子どもは喜んで納得いくまで繰り返します。その結果、集中力・注意力が身につく自立へと向かっていきます。

主任 福留

あぐねすくみ

幾何立体(木製でできた立体を手で触れたり、視覚の助けをかりて立体を識別する感覚教具をしていたB組さんの女の子Oちゃん。「円柱」の名称と形を覚え、環境から探すことに興味をもちました。始めは見つけられず、ぐるぐるとお部屋を歩いていました。しばらくして、「あった！」Oちゃんの持ってきたものは金魚のエサ。確かにその入れ物はOちゃんの知っている「円柱」です。見つけた喜びが笑顔いっぱい表情から伝わってきました。お部屋だけでは満足できず、園庭へ飛び出して行ったOちゃん。鉄棒、植木鉢、丸太…いつもの環境から探すことでOちゃんの中で「円柱」が確かなったことでした。



二宮

まりあくみ

お手伝いが大好きな子どもたち。アイロンや洗剤などとても楽しくしています。運動会でB組さんが使うスカーフにアイロンをかけることを伝えると「やりたい！」と目を輝かせ、50枚以上あるスカーフに丁寧にアイロンをかけてくれました。「お母さんみたい！」「きれいになった」と子どもたちは大喜び。本物を使った経験をたくさんすることは幼児期の子どものことにも大切です。これから本物にふれる機会をつくっていきましょう。

今村

くらあくみ

感覚教具のひとつである触覚板と一緒にしていた☆ちゃん。「つるつる」「ざらざら」と声を出しながら、触っていると「あつ！机もつるつるだよね？」と気づき、「他には…」とお部屋の中で「つるつる」と「ざらざら」を探し始めました。「ピアノもつるつる」「椅子もつるつる」「ざらざらは？」と言いながら、お外へ行き☆ちゃんが大事に持ってきたのは、砂でした。お仕事が日常生活へと繋がっていく喜びを感じました。

浅井

てれじあくみ

今までお世話をされる側だったB組さんも、自分たちより小さいC組さんが入ってきたことで、お兄さんお姉さんになった自覚が芽生え始めたようです。A組さんと一緒になって困っているC組さんに手をさしのべたり、泣いている子に声を掛けたりする姿が多く見られるようになりました。そんなお兄さん、お姉さんの姿をみて、C組さんも少しずつ「自分の事は自分でする」という自覚が芽生え、給食時は小さなエプロンを身につけて、お手伝いをする姿も見られるようになりました。日常生活や行事を通して、いろいろな壁を乗り越えていく子ども達の成長もこれから楽しみです。

田畑



ペとろくみ

毎日、給食のお当番を頑張る年長さんたち。時には、年中・年少さんたちも手伝ってくれます。お当番は、机や床の掃除をしたり、給食の配膳をします。ある日、お当番に憧れている2人の年少さんがクラスまで重い食器を運んでいました。その姿を心配そうに見守る年長さんのOちゃん。今にも落としそうに2人を見て一言。「少しお手伝いをしてほしい？」その後、ほとんどOちゃんが持ってあげて、年少さん2人は持ち手に触れている程度でした。しかし、運び終わった後の年少さんたちはとっても満足そうな表情でした。自分より小さいお友だちの気持ちをくみ取りながら関わるOちゃんに心温まる瞬間でした。

有田



もにかくみ

もにか組では、小鳥を譲り受け、クラスでお世話をしながら、成長を見守っています。子ども達も小鳥と触れ合える事をとても楽しみにしていて「今日は元気ないね…どうしたの？」「そんなにお腹空いたの？」と毎日話しかけています。卵から産まれてから、ずっと人の手で育てられていた事もあり、手を差し出すと手に乗ってくる小鳥に恐がる子もいれば、「大丈夫だよ」と手や肩に乗せる子もいます。手に小鳥を初めて乗せた子は、「先生あったかい…」と言いつつ、しみじみと小鳥を見て、体温をじっくりと感じているようでした。実際、小鳥を手に乗せてみると、足から体温が感じられて「生きている」ことを実感します。触れる事で体温が感じられる小鳥は、日々子ども達に「生命のち」を伝えてくれているように思います。

森山



よはねくみ

「これは、〇〇です。」「△△でみつけてきました。」よはねくみさんは、発表(紹介)する事が大好きです。見つけたものや作ったものを降園保育で皆の前で発表してくれています。入園当初、恥ずかしさで自己紹介できなかったC組の☆くん、今では、主語・述語の文章で堂々と皆に伝える事ができるようになりました。自分の気持ちを他者が受け止め、認めてもらえることが大きな自信となったようです。

森永

Aくみ

みんなが住んでいる星は？「地球！」以前学んだことから自信に満ちた声が響きます。大きな地球を小さくしたのが地球儀。そしてこれは、陸と海の地球儀です。ざらざらしているところが「陸」すべすべしているところが「海」地球は、ざらざらのところ「陸」とすべすべのところ「海」があります。地球は、「陸」と「海」に囲まれています。その上を空気が包んでくれるんだよ。その後、陸が大陸ごとに色分けされた地球儀を用いて、各大陸名や、色、大きさ、形、位置を紹介します。「みんなのところから黄色のところ(アジア大陸)が見える？先生のところからは見える。」「アジア大陸にある日本は今、朝です。みんなのところから見える南アメリカは今、夜です。」反対であることに不思議？おもしろい！といった子どもたちの表情でした。

藤田



～B組保育(年中保育)～

A組が体操の時間のときに、B保育が行われています。入園して園生活に慣れ親しんできた子どもたちから、いろいろな面が急激に伸びていく要素を感じることがあります。年中のなんでもやりたい時期の育ちに応じて、意図的に接点をもつために集団提示を行っています。



感覚教育 <構成三角形>

いくつかの三角を組み合わせることで新しい形をつくる。



算数教育 <算数棒>

量と数詞を一致させていく

* Aくみ・Aさん=年長 Bくみ・Bさん=年中 Cくみ・Cさん=年少 Dくみ・Dさん=満3歳児の事です。



言語教育 <小さいかご>

教師が書いた名称を読んで持ってこれる物を持ってこれない物を知る。



カトリック学園
ひまわり幼稚園

〒891-0113 鹿児島市東谷山3丁目31-13
TEL:099-268-2340 FAX:268-2333